



横浜市立釜利谷東小学校

12月号

学校便り

TEL 045-783-9398

FAX 045-701-9817

令和4年11月30日

ひがしの願い

ひとつの命

がんばる心

しんじあう仲間

はす田によせて

校長 梅田 研一

「う～わっ、つめた!」「え～、どれ???わかんないよ～」「とれた～!!!」

股下まで泥につかり悪戦苦闘しながら手探りでレンコンを収穫した4年生の声が周囲に響き、PTA会議室で仕事をされていた委員の方もほほえましく見守ってくださっていました。11月14日(月)に、本校プール脇の蓮田で地域の方の御協力をいただきながらレンコンを収穫したときの様子です。本校では4年生が地域の歴史を学ぶ一環として蓮田の学習を取り入れており、16日には収穫したレンコンを栄養士と調理員さんで「レンコンチップス」にして全校に提供してくれました。ほとんど残ることがありませんでした。

小学校では稲作の体験のために水田が整備されていたり、その環境がないところではバケツで稲を育てたりするのが一般的で、着任した際、蓮田があるのは珍しいなあと感じておりました。5月に蓮田の整備にお越しいただいた地域の方になぜ稲ではなく蓮を植えたのか理由をお尋ねしたところ、「この辺りの稲は塩害を受けることが多く、稲作には向かない土地だった」というお話を伺い、納得しました。改めて本校の蓮田が創立十周年記念事業として整備されたことを伝えるパネル(「はす田によせて」)の内容をここに紹介したいと思います。

みなさんは、はすの花を見たり、れんこんを食べたりしたことがありますね。ここに植えてあるのは、そのはすです。はすは、生命力が強く、豊かな繁栄をもたらすものとして、大事にされてきました。

釜利谷東小学校が建っているこのあたりは、おかし赤井新田とよばれ、昭和四十八年以前までは静岡県の浜名湖から取りよせたはすを植えていました。しかし、阿王ヶ台等の造成の主などで埋め立てられ、そのはす田も今では見ることができなくなりました。

そこで釜利谷東小学校開校十周年の記念にはすを植え、育てることにしました。このはすを見ながら、おかし学校のまわりいっぱい植えられていたはすを、心の中に思い浮かべてみましょう。
昭和六十三年十一月十九日 十周年記念事業(原文ママ)

校長室の他の文献も調べてみると、この辺りは昔内海が現在の手子神社辺りまで広がり、歌川広重の浮世絵「金沢八景」にあるような風光明媚な土地であった一方で、稲作に不向きであったこと、製塩でも良質な塩がとれなかったという苦労を経て蓮の栽培に至ったことが垣間見えてきました。

夏には白くて大きな花を咲かせていた本校の蓮。一帯が蓮田であった頃はさぞ美しい景色だったことでしょう。今年の大河ドラマで注目された北条氏ともゆかりのあるこの地の、また違った歴史がみえる本校の蓮と蓮田を、これからも大切にしていきたいと思えます。